

児童・生徒の現状・課題

全体として、落ちついた学習環境で授業をすすめることができる。また、教科書や教科書に準じた問題にはしっかり取り組むことができる。一方、問題文や文章題を読んで題意を掴んだり、説明や意見を文章や言葉に出したり、日常生活の場面で応用したりすることに課題がある。

学び続ける力を育むための重点目標

- 読解力をつけ、自分の考えを文章や言葉、図や表で表し、
- 試行錯誤や他者と交流を図りながら学び、
- 日常生活の中で学習したことを活かす

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標 (5月)	結果 (1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	78.3	83.0	79.1
②問題や課題に取り組んでも、上手くいかない時には、上手くいくように、違うやり方を試したり、調べたりして、粘り強く取り組んでいる。	78.7	83.0	83.4

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標 (5月)	結果 (1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	78.3	85.0	80.0
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、どうすればよいか、児童・生徒が自ら方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	95.7	98.0	100.0

具体的な手立て①

・教員と児童が文章や文章題と一緒に確認する。児童が内容や題意を掴み、伝えたいことや答えることを理解できるように導く。また、文章や言葉、図や表で表す場面をより多く確保する。

具体的な手立て②

・複数の考え方や取り組み方を準備しておき、児童が選択をしたり、別の方法を試したりできるようにする。また、児童が粘り強く取り組んだり、他者と交流したりできるように、意識して時間を充分に確保する。

具体的な手立て③

・学習内容と生活とのつながりがもてるようにする。そのために、児童が関連付けられるように、教員は気付きや言葉がけを通して支援する。また、児童が生活の中で発見したり、取り組んだりしたことを発表する場面を用意する。

総括(7月)

・全国学力調査の結果から、短答式の解答はできるが、文章や図・表を読み取ったり、記述で解答したりすることが苦手であることや、解答に時間がかかる問題には無回答が多くなることが分かった。このことから、読解力や読図力、自信をもって解答しようとする力が必要だと捉えた。そこで、対話的な活動を通して学びを深めたり、自分の選択に自信をもち、最後までやり抜く力をつけたりすることを育成することを目指す。そのために、3つの具体的な手立てに取り組んだり、校内での活発な教員間の交流を図ったりすることを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

・読解力の向上を図るため、木曜日の朝読書や読み聞かせの取り組みを見直し、学年に合った書籍の選定の指導や読書環境整備に取り組んだ。その結果、問題文を読む力が向上し、問題に正対した解答を導こうとする姿勢がみられた。またCanvaやPadletを活用することで、児童が発表しやすい環境づくりができた。そこから友達のアドバイスを生かしたり、自分と違う意見に気付いたりする機会も増えた。そして、学年会を通して複数の解決方法を確認してから授業を実施したので、困っている児童への支援を充実させることができた。今後も100%に満足せず、一人一人に対応していく。